

新計画の将来像等の検討に係るポイント

山元町震災復興計画 復興の将来像「キラリやまもと！みんなの希望と笑顔が輝くまち」

基本理念1 災害に強く、安全・安心に暮らせるまちづくり／基本理念2 だれもが住みたくなるようなまちづくり／基本理念3 つながりを大切にするまちづくり

- 1 生活 ～心豊かな町民生活を実現する笑顔あふれるまち～
- 2 産業 ～山元町ブランド産業を復興し、創造する活力あるまち～
- 3 保健・福祉 ～充実した医療・福祉体制に支えられるまち～
- 4 学校教育・生涯学習 ～家庭・地域・学校の協働のもとで夢と志を育むまち～
- 5 防災・安全・安心 ～自助・共助による防災意識の高いまち～
- 6 都市整備 ～災害に強く人にやさしい利便的なまち～
- 7 環境 ～環境に配慮し、自然エネルギーを活用したまち～
- 8 行財政運営 ～復旧復興を最優先に行政サービスを提供するまち～

①社会情勢

- 本格的な人口減少 超高齢社会の到来に備えたまちづくりの推進
- 本格的な地方創生
- 持続可能な社会づくりに向けた取り組みの強化
- 「物の豊かさ」から「こころの豊かさ」へ
- 安全で安心に暮らすためのコミュニティの再生・強化
- 地方への移住を考える若者等の増加
- IoTやビッグデータ、人口知能(AI)等の技術革新
- インバウンド観光の拡大、働き方改革、外国人雇用
- 高齢者向け医療・介護、生活支援サービスの需要の高まり
- 地方自治体の行財政の悪化、自主財源の確保
- 空き家・空き地の増加、インフラ維持・管理、災害への危険性への課題認識

山元町の現状

- 東日本大震災による大幅な人口減少、少子高齢化
- 過疎地域指定
- 新たな山元南スマートICの供用、JR常磐線の運転再開、常磐自動車道の開通
- 震災後の交流人口の増加
- 全国からの支援・つながり
- 沿岸部の農地大区画化

②復興計画における課題

- 地域の魅力を生かした定住人口確保
- 協働による子育て・高齢者支援の充実
- 教育の質の向上と学習環境の充実
- 防災力の維持や生活利便性の向上
- 環境に配慮したコンパクトなまちづくりの推進
- 産業や伝統文化・市民活動などまちづくりを支える後継者育成
- 各産業における人材確保対策

③まちづくりに対する町民意向調査一部抜粋

【一般町民・若者】
町のイメージ(中学生との共通認識):「自然が豊か」「環境にやさしい」「安全で安心できるまち」「人と人との交流が盛んなまち」
居住継続意向:「今後も山元町に住み続けたい」が7割以上。若い世代の定住意向が低い(4割は「まだわからない」)。
満足度が低い項目:「公共交通の便利さ」「日常の買い物の便利さ」「空き家・空き地活用の推進」「雇用の場の確保」。
解決すべき課題:「働く環境」「生活環境の利便性」に関わる項目の解決が重要。

【中学生】
町のイメージ:「町がすき」「山元町に自慢できるものがある」「住みよいまち」
将来の意向:大人になったら働きたいところとして「山元町」を選んだ人は1割。

④町長のマニフェスト

「来て・見て・食べて・住んでよし」
「交流・関係から定住へ、住むならやっぱり山元町」

- 子育て 婚活 定住支援の充実・強化
- 交流人口「100万人」を目指した交流拠点整備の推進
- 企業誘致 農業再生で雇用の場 所得向上を実現
- 教育 文化 スポーツの振興
- 町の発展をリードする拠点形成の推進
- 治水・排水対策 生活道路の維持補修の推進
- 心の復興 絆・コミュニティ再生の推進

⑤審議会意見

【将来像・まちづくりの理念について】

- 住んでいる人が幸せを感じられるまちづくり
- 笑顔あふれるまちづくり
- だれもが生活しやすいまちづくり
- 地域が共に支え合うまちづくり

【今後も継承すべき視点】

- 災害を避ける、災害リスクの削減
- 地域が一体となり、コミュニティを大切にする
- 歴史・文化を大切にしながら活かす
- 定住人口を増やす取り組み
- 交通利便性を活かす

【新たに追加すべき視点】

- 外国人との共生、多様な交流
- 行政経営の視点からのコンパクトなまち
- 子どもたちが魅力を感じる就業環境
- 子育てしやすいまち、愛着の持てるまち
- 若い、新しい発想によるまちづくり

<今後も継承すべき視点>

- キラリやまもと
⇒喜びと笑顔に満ち溢れ、賑わいあるまち
- 安全・安心
⇒防災にとどまらず、「減災」も視野に入れ、災害が発生しても速やかに復旧できるまち
- 人と人の「絆」
⇒地域のコミュニティ・つながり、歴史や文化を大切にするまち
- 快適・魅力あふれる
⇒人口減少も視野に入れながら利便性が高く、誇りを持てるまち

<新たに追加すべき視点>

- 創造的な復興のトップランナー
⇒新しい創造的まちづくりのモデルとなるまち
- グローバル・世界水準 ⇒グローバルな取り組みを基準とするまち
- 交流・関係から定住へ
⇒様々な人と人との交流による、住み続けたいと思うまち
- 多様な就業環境
⇒企業誘致、創業支援など、就業環境の充実したまち
- 次世代の育成 ⇒子育てしやすくふるさとに対する「愛」と「誇り」、将来への「夢」を育むまち
- バランスのとれた地域振興 ⇒丘通り(山間部)の活性化
- 官民連携のまちづくり
⇒町民・民間の活力を積極的にまちづくり活かすまち
- 心の豊かさの実感 ⇒健康で生涯にわたり活躍できるまち
- 持続可能なまちづくり ⇒行政経営の観点から効率的なまち